

内部向け

2017年9月1日

## バンコク出張報告（案）

2017年8月31日~9月1日、ASEAN最大のセラミックス展示会（ASEAN Ceramics 2017、隔年開催）の招待を受け、室町会長と共に出席。現地では主催者・タイセラミックス協会会長 Dr. Somnuk 氏や海外セラミックス協会会長とのVIP Dinner、翌日、科学技術省副大臣 Mr. Pornchai Tarkulwaranont を迎えてのオープニングセレモニー、タイ国立科学技術開発庁・ナノテク研究所長 Dr. Wannee とのランチ等で交流を深めた。

歴代の JFCA 会長として初めての海外出張で、タイ政府関係者から日本セラミックス産業へ理解を深める大変良い機会と歓迎を受けた。お忙しい日程の中での室町会長へ感謝とともに、日本と ASEAN との連携の大変良い橋渡しが出来た。

以下、出張概要を紹介する。

1. 日時：8月30日（水）～9月01日（金）、2泊3日
2. 出張先：ASEAN Ceramics2017 国際展示会
3. 出張者：室町 正志 日本ファインセラミックス協会会長  
矢野友三郎 日本ファインセラミックス協会専務理事
4. 日程：8月30日（水）羽田発→バンコク着  
8月31日（木）ASEAN Ceramics 2017 国際展示会  
（室町会長は、歓迎会後に帰国）  
9月01日（金）バンコク発→羽田着



**SHOW BULLETIN #8**  
**New Groups, New Pavilions, New Companies**

NEW Supporters  
NEW dates  
NEW halls

Southeast Asia's #1  
ceramic manufacturing exhibition

**ASEAN Ceramics**  
2017 Bangkok

**31 Aug - 2 Sep**  
**2017**  
**BITEC | BANGKOK**

www.ASEANceramics.com  
EMAIL: ceramics@aesexhibitions.com  
TEL: +66(0) 2 207 2412

Supported by: TCEB, Ministry of Trade and Industry, Thailand

Conference Organized by: ICTA2017

Organized by: AES

## 5. 報 告 :

### (1) VIP Dinner、8月30日

国際展示会前日、展示会出席の要人との夕食会に招待され、冒頭、室町会長が挨拶。国際展示会を通じて世界の関係者が定期的に交流する意義、日本のセラミックス産業の現状、日本とASEANとの連携の重要性等について言及。また、世界三大セラミックス展、①高機能セラミックス展、東京（日本）、②Ceramics EXPO、クリーブランド(米国)、③Ceramitec、ミュンヘン（欧州）に ASEAN Ceramics 展を加えて世界 4 大展示会になるとの挨拶には拍手が起こった。

懇談の中で、ASEAN 諸国のセラミックス協会は、毎年、持ち回りの定期会議をもち、今年は 10 月開催とのこと、三人寄れば文殊の知恵で素晴らしい。

### (2) 展示会&国際会議等、8月31日

#### (Opening Ceremony)

開会式には、タイをはじめ、日本、ベトナム、フィリピン、シンガポール、インドネシア、マレーシア、中国、インド、スリランカ、バングラデッシュ、トルコ、ハンガリー等が出席、テープカットには、科学技術省副大臣 Mr. Pornchai Tarkulwaranont をはじめとし、日本（室町会長、矢野）の 2 人を含め 11 人が壇上に上がった。



(中央が副大臣、副大臣から右 2 番目が室町会長、右端が著者)

#### (ASEAN Ceramics 2017)

ASEAN Ceramics 2017 展示会は、8月31日(木)から 2017年9月2日(土)、バンコク市内の BITEC (バンコク国際貿易展示場) で開催され、オールドからニューセラミックスまで、白色陶磁器、粘土等の原料、生産機械、技術の国際展示会。展示会は、アジア展示会サービス (AES) が組織し、工業省、科学技術省、国立科学技術開発庁 (NSTDA)、タイセラミックス協会、インドネシアセラミックス協会、インドセラミックス協会、バンクラデッシュセラミックス協

会、世界セラミックスアカデミー等が協賛。

主催者の発表では、出展数 250、来場者数 4500 人規模の国際展示会で、展示会の来場者は、アジアでも特に ASEAN パートナー国、最も人数が多いのは、ベトナム、次いでインド、中国、マレーシア、日本、シンガポール、台湾、スリランカ、バングラデシュ、インドネシア、香港、韓国、ブルネイ、フィリピン、ミャンマー、パキスタンの順。興味を引いたのは UK Trade & Investment (UKTI) が出展し、投資促進 PR をしていたこと。会場で気が付いたことは、中国や韓国の出展や来場者が極めて少ないこと、原料メーカーの出展が比較的多いこと、オールドセラミックスの展示が主体であること等である。なお、ASEAN Ceramics 展は、2015 年、タイ政府から ASEAN ライジングトレードショー賞 (ASEAN Rising Trade Show Award) を受賞。

#### (ICTA 2017)

展示会と併設してテクニカルプログラムとして ICTA2017 (International Conferene on Traditional and Advanced Ceramics) が開催。プログラムは、基調講演とポスターセッション (66 件) で構成され、基調講演には、日本からは東北大学・後藤教授、長岡科学技術大学・小林教授及び中山教授、JFCC・木村主任研究員の 4 名が招待。このほか筑波大学・鈴木准教授、シンガポールの南洋理工大学、ベトナムの科学技術アカデミー、フィリピン (東北大学で博士号)、トルコ、ハンガリー (長岡理科大で博士号) 等の教授も出席し、充実した内容であった。国際会議は、ニューセラミックスが主体である。また、京都繊維工芸大学大学院の学生 3 名の出席には驚いたが、若い頃からの海外交流は大変貴重である。

#### (NANOTEC 所長とのランチ)

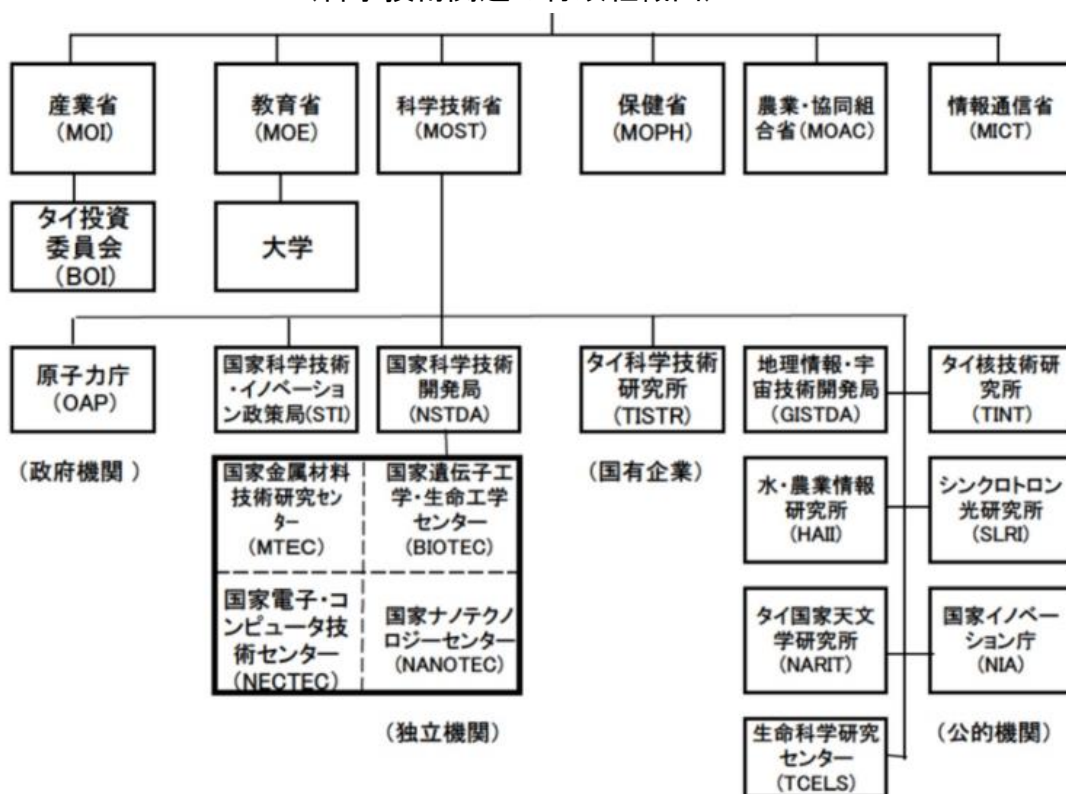
タイ国立科学技術開発庁 (NSTDA)・ナノテク研究所長 Dr. Wannee とランチでタイのナノテクについて意見交換を行った。NSTDA は、タイ王国における科学全般の研究開発、技術移転、人材育成を担う科学技術省傘下の独立研究所で、バイオ、材料、ナノテク、情報の 4 つの研究所をもち、タイにおける主要な研究開発組織。

ナノテク研究所 (National Nanotechnology Center) は、ナノテクノロジーの開発と製造技術への応用を目的として設立され、自らの研究室で研究活動を行うと同時に、内外へ研究資金の提供も行っている。研究対象はナノ材料、ナノバイオ技術、ナノエレクトロニクスの 3 分野で、ファインセラミックスも含んでいる。

ランチでは JFCA 活動を紹介し、来年の高機能セラミックス展へ出展を検討したいとのこと、また、研究員の研究がタイ市場と解離し研究に市場性を導入

することが課題とのこと。研究の市場性はどこも同じで、研究成果をビジネスにつなげ、研究を顧客のニーズにする発言には驚いた。特に、研究資金が限られる途上国では不可欠で、そのための仕組みを如何に構築するかである。大学では、1917年創立のタイで一番古い大学、チュラロンコン大学の材料工学部は有名で、同学部は ASEAN Ceramics ヘブースを出展し、開会式で表彰されていた。

(科学技術関連の行政組織図)



(NSTDA 元副理事長との懇談)

室町会長の空港への出発前に、NSTDA 元副理事長と軽食。私にとっては 10 年振りの再会で、突然であったがタイセラミックス協会長の仲介で会うことが出来た。王室の権威と議会民主主義を併存させるタイ式民主主義の最近の状況を聞くと、昨年 10 月、プミポン国王の崩御を受け政府機関は 1 年間の服喪に入り、市内はやや黒色の服が目立つ。今年 10 月以降は、プミポン前国王の火葬の儀 (10/27 日) やワチラロンコン国王の戴冠式等の行事が控えているが、総選挙を経た新政権の発足までには時間を要する見込み。経済発展に向け安定や民主的な政治運営が必要不可欠との認識が広がり現在の軍事政権が続くのではないかと見ている。現在、日系企業は 4500 社を超え、今後の動向が気になるところである。

### （タイのセラミックス産業と ASEAN の現状）

ASEAN のセラミックス市場規模（陶磁器、タイル、耐火レンガ等が主体）は世界第 3 位の規模。タイは、中国・インドと並びアジアのセラミックス産業を牽引。2015 年の上半期でタイのセラミックの輸出額は 2014 年に比べ 16%アップ、タイの SCG グループ（民族系）は今や世界的な巨大セラミックタイル企業である。

タイは ASEAN 貿易の中心に位置するだけでなく、メコン川流域の大メコン圏（GMS）の中心。GMS は、ミャンマー、ラオス、カンボジア、中国南部、タイからなり、3 億人以上の人口、陸続きであること、鉄道に近いことに加えて、急激な人口増加、新興国と成熟国の融合、インドやロシア、ヨーロッパへの貿易経路等で、この地域は世界でも最も重要な貿易区域の一つへと急速に成長している。

また、ASEAN の貿易相手国は地理的国境を越えて、ASEAN 各国とインド、中国、韓国、日本、オーストラリア、ニュージーランド。日本を除いたアジアは 1998 年には世界経済の 9%であったが、2012 年には 21%、2016 年には 27%に達すると予測されていた。ASEAN の強みは、輸出大国であるだけでなく、製品やサービスを生み出すための機械や材料の巨大輸入国でもある。

（現地での配布資料の翻訳）

## 6. 所感

ASEANCeramics 展は 2012 年発足し、2013 年、2015 年、2017 年と今回が 3 回目の開催となる。オールドとニューセラミックスの展示会と世界的に著名なスピーカーからのプレゼンテーションとパネルディスカッションも聞ける国際セラミック会議との組み合わせでうまく企画されている。

しかしながら、展示会では原料陶石や陶磁器などの伝統的なセラミックス展示が多く、まだ ASEAN のセラミックス協会は伝統的セラミックス（いわゆる焼き物）が中心産業。タイでは、海外企業を中心にファインセラミックスの生産は行われているが、タイ自身ではファインセラミックス研究の素地はまだない状況にある。国際会議に出席した先生からは、タイの研究者は新技術に対する興味が高く、講演後のコーヒーブレイクでは、具体的で本質的な質問が続いた。ただ、なかなか新しい研究を始める予算がない様子で、新しいことをやるには海外に留学するしかないこと、特に女性研究者の活発さが目立っていたとの話であった。また、タイセラミックス協会のブースで、来年開催の第 3 回高機能

セラミックス展（2018年12/5～7、幕張メッセ）、JFCA、会員企業の製品パンフの紹介と広報を行った。

今回の ASEAN Ceramics 展は初めての参加で、展示会場で ASEAN 中心に地図を描く説明を受けると日本との差異を感じる。海外出張で良いことは、自分と他人の視点が異なることを体感し、そして世の中の出来事は、自分から見える景色だけでなく氷山の一角であることを再確認することで、もっと他人の視点に立ってみること、その背後にある構造について考えることの大事さを認識させる。時々の海外出張は大変有益である。

最後に、今回の出張では産総研の前国際部長で、現在、バンコクで御活躍の宮崎上席イノベーションコーディネータには大変お世話になり感謝の意を表したい。

#### （余談）

バンコク市内の渋滞は今も昔も大きな変化がなく、30日の夕食会はホテル経由でなくバンコク空港から直接に会場へ移動した。現在、市内には5本の地下鉄 MRT と高架鉄道 BTS が走り、2029年までに12路線がバンコク都内を中心に開業予定。ただ、開業予定時期は当てにならないが、今後5年～10年間に交通インフラ計画をもつ国は ASEAN ではタイのみである。

#### 世界第2位を誇るバンコクの渋滞



（注）世界1位：メキシコシティー、第3位：ジャカルタ

以 上